

2022(令和4)年度

選択の手引

学 習 院 高 等 科

高等科のカリキュラムについて

学習院高等科
科長 武市 憲幸

学校のカリキュラムとは、その学校でどのような教育を行おうとしているかを示す指針だと思います。われわれは、君たちが中等教育（中等科・高等科）を終えて、高等教育（大学）へと進学してゆくにあたって、ここまでは学んでおいて欲しい、つまり中等教育の締めくくりとして高等科のカリキュラムは編成されています。その大きな柱は必修科目と選択科目の二つです。

必修科目については、その先の進路をどのような道を選ぼうとも、必ず学んでおかねばならない科目です。世間では、よく理系、文系というような切り分け方がされるのですが、君たちはいたずらにこの言葉に振り回されて欲しくありません。「自分は理系だから」とか逆に「文系だから」と限定してしまうのはあまりにももったいないし、その先に待っている大学で学ぶべき、より専門性の高い学問においても、こうした姿勢は視野を狭めてしまうことになるでしょう。高校生のうちに学び、身につけておくべき事柄として、それぞれの科目にしっかりと取り組んで下さい。将来、意外なところでそれぞれの教科の結び目が見えてくるはずです。

一方の選択科目に関しては、自身の興味、関心をより自由にはばたかせて、選択して欲しいと思います。高等科では君たちの多様な関心に応えるべく様々な選択科目を用意しています。もちろん自身の進路に必要な科目を選択するという側面はありますが、大学で学ぶ専門的な分野にスムーズに入って行けるための講座も数多く用意されています。各講座のシラバスをよく読んで、「自分自身の科目」を選択して下さい。そしてさらに授業の枠を越えて、新たに呼び起こされた疑問を教員にぶつけてみて下さい。君たちの新鮮な疑問は、教員にとって、さらに授業を充実させるため材料になるはずです。

学習院高等科 教育課程

[1年]

HR	現代文・古文	世界史	地理	数学共通	数学β	物理	化学	生物	地学	英語1・英語表現 E C	情報	保健体育	家庭	計	
1	2	2	3	2	3	2	1.5	1.5	1.5	1.5	5	2	4	2	34 (単位)

[2年]

HR	現代文	古文・漢文	日本史	数学α	必修 選択	必修 選択	必修 選択	英語2 英語演習	英語表現 E C	芸術 選択	保健体育	総合 選択	計	
1	2	2	2	3	3	2	2	2	4	3	2	4	3	35 (単位)

選択 B
 地理 1
 日本史 1
 世界史 1a
 世界史 1b
 選択 C

選択 C
 物理 1
 化学 1
 生物 1
 地学 1

選択 D
 古文 1 英語 1a
 漢文 1 英語 1b
 中国語 1 情報 1
 独語 1
 仏語 1 選択 B・C

芸術1
 から1科目

総合
 から1科目

[3年]

HR	現代文	古文・漢文	倫理	政経	数学α	必修 選択	必修 選択	英語3 英語演習	英語表現	必修 選択	体育	保健	計
1	3	2	1	2	2	3	2	2	2	2	2	2	30
													計
													31
													計
													32
													計
													33
													計
													34
													計
													35
													計
													36 (単位)

選択 E
 地理 1 政経 1 物理 1 地学 1 独語 1
 * 地理 2 社会演 1 物理 2-2 地学 2-2 独語 2
 日本史 1 古文 1 化学 1 数学演 1a 仏語 1
 * 日本史 2 * 古文 2 化学 2-2 数学演 1b 仏語 2
 世界史 1a * 漢文 2 生物 1 * 情報 2 英会話 1
 世界史 1b 小論文 1 生物 2-2 中国語 1 * 英語 2a
 倫理 1 中国語 2 * 英語 2b

選択 F
 物理 2-1
 化学 2-1
 生物 2-1
 地学 2-1
 (1単位)

自由選択
 芸術 1
 芸術 2
 体育 1a
 体育 1b
 選択 E・F

物理2・化学2・生物2・地学2 は選択E・Fで3単位を同時に履修しなければならない
 * : 同じ科目の1を履修していなくても選択できる科目

◇数学の選択について◇

- 数学は2年・3年次において、 α コース・ β コースのいずれかを選択しなくてはならない。
 - 〈 α コース〉卒業までに、数学I・数学II・数学A・数学Bを学ぶ。
 - 〈 β コース〉卒業までに、数学I・数学II・数学III・数学A・数学Bを学ぶ。
- 原則として3年次におけるコースは、以下のような選び方となる。



◇科目選択上の制約について◇

- 基本的には、選択科目の1を履修済みの者だけが、同じ科目の2を選択できる。
(例:書道2は書道1を履修済みでないとは選択できない。)
- ただし、以下の科目については、1を履修していなくても2を選択できる(前頁図の*印)。
地理2、日本史2、古文2、漢文2、情報2、英語 2a、英語 2b
- 以下の科目については、1と2を同時に選択できる。
地理1・地理2、日本史1・日本史2、古文1・古文2
- aとbのついた科目:
 - 英語・数学演習・体育の1aと1bは同時に選択できない。
 - 英語 2aと2bは同時に選択できる。
 - 世界史 1aと1bは3年次のみ同時に選択できるが、2年次には同時に選択できない。
- 2年次に履修した科目は、3年次に再び選択することはできない。
(例:2年で書道1を履修していた場合、3年で再び書道1を選択することはできない。)
- コマの都合上、3年次に数学2と物理1、数学2と化学1を同時に選択することはできない。

◇一部科目の定員について◇

- 芸術1、総合、体育 1a、体育 1bには定員があり、抽選となる場合もあるので注意すること。
- 芸術1の定員についてはシラバスを参照のこと。3年生の芸術1の履修については、2年生の履修を優先するため、空きがある場合のみ可能とする。

◇自由選択科目について◇

- 3年次で自由選択科目を放棄する場合は、新年度の4月末に放棄願の届出を行う。届出が許可された場合、履修が免除される。人数等の都合により放棄できないこともある。

◇学習院大学理学部へ進学を希望する場合について◇

- 2・3年で数学 β コースを履修することに加えて、理科の履修を以下のように義務づける。

[物理学科] 「物理1・物理2」および「化学1または生物1または地学1」。

[化学科] 「化学1・化学2」および「物理1または生物1または地学1」。

[数学科] 「物理1・物理2」、「化学1・化学2」、「生物1・生物2」、
「地学1・地学2」のうち、少なくともいずれか1組。

[生命科学科] 「物理1・物理2」、「化学1・化学2」、「生物1・生物2」のうち2組。

◇ 実力考査について◇

- ・3年生を対象に、2回(第1回=9月、第2回=1月)実施される。
- ・国語、社会、数学、理科、英語の5教科で実施され、数学・社会・理科については科目を選択しなくてはならない。科目の選択は6月(第1回)、11月(第2回)に行う。

選択科目

数学— 数学 A、数学 B

社会— [倫理または政経]、地理、世界史、日本史

理科— [物理 A または物理 B]、[化学 A または化学 B]、
[生物 A または生物 B]、[地学 A または地学 B]

- ・理科・社会の選択パターンは、次のいずれかとなる。

社会 1 科目 + 理科 2 科目

社会 2 科目 + 理科 1 科目

(注意) 社会は、倫理と政経を同時に選択することはできない。

理科は、同じ科目の A と B を同時に選択することはできない。

例えば、物理 A と物理 B を同時に選択することはできない。

- ・学習院大学理学部志望者には、[数学 B]を選択することに加えて、理科の選択を以下のように義務づける。

物理学科	[物理 B]および [化学 A、化学 B、生物 A、生物 B、地学 A、地学 B の中から 1 科目]
化学科	[化学 B]および [物理 A、物理 B、生物 A、生物 B、地学 A、地学 B の中から 1 科目]
数学科	[物理 B、化学 B、生物 B、地学 B の中から少なくとも 1 科目]
生命科学科	[物理 B、化学 B、生物 B の中から 2 科目]

新 2 年生

◇ 選択科目ガイド（2年） ◇

数学

☆数学1

β 選択者を対象に、この科目と必修3時間を合わせた5時間で、数学Ⅱ（図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分法・積分法）と数学B（ベクトル、数列）を学習する。時間が許せば、数学Ⅲの一部を行い、3年次の授業でより発展的な内容を扱う予定である。

選択B

☆地理1

世界の産業（農業・工業）に関する系統的な学習と世界地誌について、教科書「地理 B」および図説資料集を中心に、地図帳、新聞資料、統計書、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注）3年次で地理2の受講を予定している者は地理1を受講するのが望ましい。

☆日本史1

原始・古代と中世を対象とする。すなわち旧石器時代から戦国時代までをあつかう。必修日本史では近世と近代・現代に重点を置いており、それ以前の古い時代には軽くしか触れられない。そこを補うためにもうけられた選択科目である。講義は脇役で、テキストの要約と論述問題の解答が主役である。

☆世界史1a

選択世界史(1a/1b)では、1年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史1aでは、そのなかでも特に東洋史を扱うこととする。（中国史及びアジア近代史）

☆世界史1b

選択世界史(1a/1b)では、1年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史1bでは、そのなかでも特に西洋史（前近代のイスラム史を含む）を扱うこととする。

選択C

☆物理1

1年次の必修物理で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱」、「波」、「電気」を中心に扱う。演示実験を行うので、皆で議論していきたい。

☆化学1

教科課程における「化学基礎」のうち、1年次の残り、「化学」の一部を学ぶ。

「酸化還元反応」、酸化還元反応のひとつとして「電池や電気分解のしくみ」、「無機化学」、「有機化学」を学ぶ。無機化学では覚える内容が多く、有機化学では覚えたいうでの新しい概念の構築が必要となる。

全般を通して理論だけにおさまらない事実学ぶ。そのため実験は多く、実験と座学を結びつけて考えていく必要がある。1年次の内容の上に立つカリキュラムである。随時内容を振り返るが、必修化学が振るわなかった者には努力をしてもらわないと厳しいものになる。

使用テキスト）化学基礎、化学、ニューグローバル 化学+化学基礎

☆生物1

1年次における既習事項を基礎にして、細胞と遺伝子、有性生殖、発生、動物ホルモン、植物ホルモン、動物の反応と行動、生物と環境、生物進化と系統について学ぶ。「生物」の教科書を用いる。

☆地学1

1年時における内容をふまえて学習を進める。「地学基礎」に加え、「地学」の学習事項も扱う。主に気象分野（「地学基礎」と「地学」の内容）と、天文分野（「地学」の内容）を講義する予定である。

選択D

☆古文1

古文の読解力を鍛え、読むことの深みを知る。授業において、受け身で現代語訳をノートするだけでは読解力は身につかない。自ら辞書・文法書を駆使して原文に向き合い、どう読み、どう訳すのかを悩む時間の積み重ねが力となる。授業では、学生に一定の範囲を割り当て、その読解の結果を発表してもらい、それに対して討論し、訂正していくことを積み重ねていく。古語辞典を用意してもらうことになる（授業時に指示）。

☆漢文1

日本の文化にも大きな影響を与えた中国の古典文化を理解するため、文学・歴史・思想にわたる様々な作品を読んでいく。必修と同時スタートとなるので、履修に当たっての予備知識は必要ない。

☆中国語1

発音の基礎、日常会話、基本的な文法、簡単な作文ができるレベルまでを目標とする。授業を通して最新の中国の事情、さまざまな文化を紹介する。

☆ドイツ語1

ドイツ語に関する基礎知識を学び、それをもとにした情報の受信・発信能力の基礎を習得することを目的とする。英語等との比較も行いつつ、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」ことについての基礎的・実践的トレーニングを行なう。時間に余裕があればドイツ語圏の文化・社会事情も扱いたい。総合のドイツ語と併せての履修も効果的。

☆フランス語1

初心者が無理なく学習できることを目指す。文法を学ぶだけではなく、何回もフランス語を目にし、耳にすることで徐々にフランス語の文字や発音に慣れていけるようにする。さらに簡単な挨拶や自己紹介など日常会話に役立つ表現も紹介していく。語学用教科書やコピーを用いる予定。

☆英語 1a

本授業は、英語多読を行うことによって読みの持久力を養成することを目的にする。英国の小学校において人気の高い絵本のようなものから始め、英語力に不安を感じる人にとっても無理なくたくさん読めるようにする。一年間の終わりごろには、英語の本を楽しく読めるくらいにまでなることを目標に掲げたい。

授業は、図書館所蔵の3,000冊以上の Leveled Readers や Graded Readers などの難易度がコントロールされている英語の読み物から好きな本を借りて読む。読んだあとは、かんたんな要約と気に入った一文とその理由を Book report に書いて提出したり口頭発表を行う。

☆英語 1b

Beginner to intermediate level English students will improve their vocabulary, grammar, reading and writing skills.

☆情報1

プログラミングの基礎を学習します。

プログラミングを学ぶことにより、コンピュータを使って何かを生み出すというクリエイティブな活動を行うことができるようになります。また、様々なプログラムを設計し、自分の意図した通りに動くように修正するプロセスを通して、物事の手順を自ら考え、構造化する能力を身につけることが授業の目標です。課題作成の際、自宅にスマホだけではなくパソコンの作業環境があることが望ましいです。

芸術1

☆芸術1

○書道1 定員:60名

書道1では、漢字の各書体の変遷を中国や日本の名跡から学ぶ。また、仮名の学習では平安時代の古筆を学ぶ。授業では墨汁は使わず磨墨をし、用具・用材は高校生に相応しいものを使用する(初回授業にて指示)。

○音楽1 定員:35名

ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスから一種類を選択し、一年かけて弦楽合奏を行う。コーチによるレッスンを受けるので、楽譜の読み方など最低限の知識は必要だが、弦楽器未経験者も歓迎する。なお、楽器を所有していない生徒には学校の楽器を貸し出すが、履修人数によっては一台を数名で使うことになる。

○日本画1 定員:64名

野菜、花、剥製などをモチーフにした静物画を制作する。岩絵の具と顔彩と色紙を用いて、基礎的な日本画の技法を習得する。

○西洋画1 定員:30名

油絵具の使い方から始め、1年間で三点の油絵を制作する。各学期に静物画・風景画・自由制作の基本的な描き方を学ぶ。美術鑑賞として美術館見学を行う。

○工芸1 定員:30名

工芸では木材や金属等の実材の加工、デザインを通じ、素材について学び、自ら設計・デザイン、制作を行い、ものをつくることについて学ぶ。

工芸1では、基本的な素材の加工方法、設計・デザインなどを行う。

総合

☆総合

○演劇入門

スマホやゲームなどのデジタルメディアが普及した現在では、わざわざ劇場に足を運ばなければ見ることのできない演劇は、時代遅れのメディアのように思えるかもしれない。たしかに、デジタルメディアによりわれわれの生活は大きな変容を遂げた。だれもが簡単に情報を発信でき、またその情報をいつでもどこでも再生し、誰かと共有できるようになった。しかし、変容したのはメディア環境の方であって、人の営み自体は、実は太古の昔からそれほど変わっていないのかもしれない。

演劇は、特定の時間と空間を共有する見る側(=観客)と見られる側(=演者)の緊張関係を前提としている。そして、同じことを二度とは体験できないという一回性が演劇の魅力の源泉である。おそらく人は文字を発明するよりも前から、この演劇のもつ緊張関係や一回性に魅了され、演劇的な行為を見たり行ったりしてきた。これら演劇の魅力は、決してデジタルメディアでは味わえないものである。

この授業では、見る側と見られる側の両方から、演劇という古くて新しいメディアにアプローチする。見る側としては、映像資料を使って過去の公演を鑑賞する。また数回は実際に劇場に足を運ぶ機会を作りたい。見られる側としては、演劇の公演を企画したり映像作品・ラジオドラマなどの創作を行うことで、表現することの面白さを体験してほしい。

1単位分に対する対応：授業への参加度などで総合的に評価する。

○漢字の文化史

漢字は、表音文字でもなく、表意文字でもない、表語文字と呼ばれる記号です。その起源はいつごろなのか、それは分かりませんが、少なくとも三千年近くにわたって脈々と受け継がれて来ました。世の中に漢字はいくつあるでしょう？最も画数の多い漢字は？そんなところから始めて、字体や書体など、漢字そのものに関わる事柄や、漢字に関連する様々な文化、漢字によって触発された東アジアの文化などについて、個人やグループで課題に取り組み、学びあいを進めていきます。

1単位分に対する対応：授業内の発表と学期ごとのレポート、その他の提出課題による。

○通史でない世界史「海から見た世界史」

今までみなさんが歴史の授業で学んできたことをもとに、今までみなさんが歴史の授業で学んできたやり方とは違う方法で歴史を学んでいきます。

例えば、古いほうから順番に時代をおって世界の歴史をみてゆく「通史」というかたちではなく、時代や場所やテーマを限定して「歴史」と向き合ってみます。

例えば、授業の中であたえられる歴史に関する知識をただただキャッチするだけではなく、自分自身で「過去の世界はこのような世界ではなかったのか」ということをイメージし、自分なりの「歴史像」をつくりあげてみることに挑んでみます。

そのために必要な材料は、今までの歴史の授業のなかでいろいろと身につけてきているはずですし、この授業の中でもさらに提供してゆきます。あとは、それを材料に自分で考え、自分でイメージを膨らませるのです。あなたの総合力が問われます。

今回、授業でとりあげるのは、「海から見た世界史」というテーマです。教科書で習う歴史は、日本史でも世界史でも、陸からの視点に基づくものがほとんどです。せっかくの機会です。ここは視点を変えて、海から陸の歴史を眺めてみませんか。また、「総合」の授業科目であることを生かして、ゲスト講師の招聘、校外での学習、体験的な学習なども織り交ぜてカリキュラムを構成する予定です。沖縄修学旅行もうまくからめれば、実地での体験学習も可能でしょう。可能性をどこまで広げられるかは、あなた次第です。

(学期末には、他の総合の授業と同じように、レポートをまとめ、提出してもらうことになります。)

○自動車産業の現在、過去、未来 ～History and Future of Automobile～

我々にとって身近な乗り物である自動車は、いつどのようにして生まれたのか。自動車誕生の歴史から、各時代の社会におけるその役割、未来に向けての進歩を探ることをテーマとして授業を行います。書籍・雑誌やテレビ、インターネット、映画等も資料として、様々な角度から自動車について取り扱う予定です。

1単位分に対する対応：授業内での発表・テーマを決めての討論・学期末のレポート提出

○写真を撮る・見る

いまやスマートフォンに触れるだけで撮れるようになった「写真」。そのことが却って1枚1枚の扱いを空疎なものにしているかもしれません。この授業ではより積極的に写真を「撮る(=創る)」ことについて着目したいと思います。

前半ではカメラの操作など基本的な知識を確認し、多様な被写体を課題にすることでカメラへの理解と撮影の経験を重ねます。また「撮る」ためには「見る」ことも重要です。授業では皆さんの写真の鑑賞や検討を行い、折に触れて写真作家の作品も鑑賞します。自分の写真も含め、さまざまな写真を見て考えることが、写真への理解や自身の撮影にもつながるはずです。

学年末には、各自が定めた1つのテーマをもとに写真集を制作します。後半ではそれに向けてコンピュータ処理や写真の選び方／並べ方といった「編集」を通して、他者に何をどう伝えられるのか、実験を重ねます。同時に写真集の素材を撮影し、人に見せ、検討を受けて、また撮影するという作業を繰り返し、質の向上を目指します。

適当にシャッターを切るのではなく“考えながら撮る”ことを実践する中で、普段気づかないようなものごとの見方に気づいてくれることを期待しています。

※成績:出席、課題の成果物、写真集や写真展鑑賞の感想文などを総合的に評価します。課題は多くが宿題で、期日までに仕上げてください。

※授業にデジタルカメラ(できれば一眼)が必要なので、各自用意してください。

※PCでソフトを操作する場面は多々ありますが、それほど心配しないで下さい。

○博物館を知ろう

皆さんは「学芸員」という職種について、聞いたことはありますか？博物館や美術館で働く専門家のことです。学芸員は様々な業務を担っており、史資料の収集や保管、調査・研究、展覧会の開催、教育普及など多岐にわたっています。実は学芸員は、専門的な知識や技術が豊富でなければこなせない仕事です。

この授業では、歴史系・美術系の博物館に勤める学芸員はどういった知識が必要であるのかを学びます。主に、絵巻、屏風、掛軸、仏像、刀剣、鎧甲冑、茶器などの美術・工芸品についての基礎知識を学んだうえで、実際に博物館や美術館へ行って展示を見学します。絵巻や掛軸、茶器については、実際に手にとって取り扱いを実習したり、絵巻の詞書(くずし字)を読んだりしていきたいと思います。また、独自の展覧会(ミニ展示)を企画し、発表する予定です。座学中心の授業でなく、大学史料館と協働で運営する体験的授業で外部施設に行ったり、専門的な知識を学ぶことに興味ある人はぜひ参加して欲しいと思います。

○音楽と政治

この授業ではクラシック音楽を素材として、作曲家や演奏家が生きた時代の歴史や文化を学ぶ。好きな曲がある、好きな作曲家・演奏家がいるという人は多いだろう。でも単なる「好き！」で終わらせるのではなく、彼らが生きた時代や社会背景について理解を深めていくと、音楽への理解が深まるだけでなく、社会の様々な問題への関心が芽生えてくるかもしれない。

授業では18世紀のヨーロッパから話を初めて、20世紀のソ連やナチス・ドイツの社会と音楽の関係を探っていく。また現代日本に生きる我々にとってクラシック音楽はどのような意味をもっているかについても考察してみたい。

普段の授業は講義・受講者による発表・音楽鑑賞で構成される。毎回、受講者に簡単な課題を出すので、翌週の授業で簡単な発表をしてもらう。レジュメ(発表要旨・資料)のつくり

方、レポートの書き方についてはしっかり指導する。評価は受講者による発表と期末レポート等に基づく。

また折に触れて、授業で扱った作品が演奏されるコンサートに足を運び、生の演奏に触れる機会をもちたい(コンサートは授業の一部として扱う。チケット代・交通費は自己負担。新型コロナの状況次第では行かないこともありえます)。授業内容について質問があれば気軽に教務課の島田を訪ねて下さい。

○生命科学 入門 映像による、遺伝子科学・脳と心・人体・生命進化

映像資料を用いて、DNA と遺伝子科学について、脳と心について、人体について、生命進化について学ぶ。

21 世紀は、遺伝子科学の進歩とともに歩み始めている。遺伝子とは、何かとても複雑で、難しい印象を受けるものかもしれないが、映像を用いて、この世界を学んでみよう。

脳と心は、物質と電気信号による制御から成り立っている。心とはどのようなものからできているのか、映像を用いて一緒に考えていこう。ヒトの体は、どのような構造、しくみになっているのか、映像で詳しく見ていこう。

生命の進化は、地球の進化とともに進んできた。そのきっかけとなったさまざまな環境変化とは何だったのか。映像を用いて、自ら調べて、謎を解いてみよう。

博物館見学も行う予定です。

○フランス文化入門

日本で紹介されるフランスのイメージは、美食・ファッション・芸術・サッカーと言った紋切り型のものになりがちです。しかしフランスにはそれとは異なる興味深い面がまだまだたくさんあります。この授業はフランスの言語、歴史、地理、政治経済といった基礎知識はもちろん、映画やアニメといった普段あまり取り上げられない分野も紹介し、受講者がフランスに対する知識を深め、自発的にフランス文化について研究する手助けをすることを目的として進めます。また美術展見学やフランス料理を味わうなどの校外授業にも出かけたり、クレープを作るなど、実地の経験を通じてフランス文化に対する理解を深めることも予定しています。知っているようで知らない国フランスに少しでも興味・関心のある生徒はぜひ受講してください。

各学期とも、フランス文化あるいは日仏の文化比較についてのレポート提出 and/or 口頭発表をしてもらう予定です。

○声に出して覚えるドイツ語

日常的に用いられるドイツ語の表現を、まず声を出るところから始めて、ドイツ語を利用する際の基本的なノウハウを学習していく。初めて学習する人にも分かりやすいドイツ語のテキストを、読んだり聞いたりしつつ、ドイツ語で文を作ったり、声に出して話してみたり、といった実践的トレーニングを行なう。同時にドイツ語圏の文化的事情にもふれて行く予定。

ドイツ語やドイツ語圏の文化に興味がある人、これから何か新たに外国語をやってみたいという人大歓迎。選択のドイツ語と併せて履修することもでき、その場合は一層理解が深まるのでお勧め。

ドイツに関する発表課題(日本語)を課す。

○体脂肪を燃やそう

近年はダイエットブームでさまざまなダイエット法がありふれている。しかしながら極端なダイエットも問題であり、健康で太りにくい体をつくるのが大切である。そのために体の構造を探求し、自らの生活習慣や食生活を見直す。そして総合的(ウエイト、スピード、プライオメトリクス、バランスなど)なトレーニングで、しなやかな筋肉をつけ基礎代謝を上げることにより、

脂肪を燃焼させる。

様々な観点から、体の構造を探求して自らの生活習慣や食生活を見直す。総合的なトレーニングによって効率的に筋肉をつけ代謝をあげ、脂肪を燃焼させること学ぶ。食事、トレーニング記録とともにレポートの提出を課す。

○Critical Reading and Discussion

The aim of this class is to develop students' English skills to a level where they will be useful in whatever field students pursue after high school. A variety of magazine and newspaper and internet articles on current topics will be used in class and students will develop their ability to think about the main issues and evidence in a critical way. Students will also have to present their views to the rest of the class and persuade any classmates who disagree with them using logical reasons and supports.

Term 1 Grades will be based on a class test and some presentations.

Term 2 Grades will be decided by a series of class discussions.

Term 3 Each student will write a Report.

○ハングルを学ぼう

韓国は日本の隣国であり、日本にとって最も関係の深い国の一つです。韓国は日本と類似点が多くみられると同時に相違点も多く、異文化理解を考える際、韓国ほど面白いテーマはありません。

この授業は、韓国語入門および韓国文化入門となります。韓国語はハングル文字の読み書きから始めて、1年後には韓国語による初歩的な表現・理解ができるようになることを目指します。韓国文化入門では、韓国の伝統文化・現代文化や韓国人の価値観・考え方などを考察していきます。また、韓国人の対日意識や日韓関係についても取り上げていく予定です。授業ではテーマに関する文献を読んだり映像を見ながら、受講者同士で活発な意見の交換をしてもらいたいと考えています。時には校外学習も予定しています。なお、各学期末に与えられたテーマに関する2000字程度のレポートを提出してもらいます。

○理科系ライティング演習

実験レポートや報告書、説明書など、正確で簡潔な表現が求められる文書を理科系文書と呼ぶことにし、これらを上手に書けるようになることを目指して演習形式の授業を行う。正確に客観的に事実を伝え、明確に論理的に意見を述べる事を意識し、文書を書いてみる、読み合ってみる、自分に向けた推敲方法を考える等、受講者主体の演習を予定している。後期にはそれまでに培った技術を活かして、プレゼンテーション、質疑応答等の口頭形式の演習も行いたい。なお、文系志望者も受講可能である。

○国際協力入門

人・モノ・金・情報が非常に速いスピードで世界中を駆け巡る現代のグローバル時代ですが、それに伴うテロリズム、難民流入、収入格差、環境汚染等の問題が世界各国では深刻化しています。こうした事態への反動として「反グローバル」が声高に叫ばれ、地域統合体からの脱退、閉鎖的な外交政策、国内政策重視等、内向きの政治が人々に支持される例が世界中で如実に見られます。

一方 TOKYO2020 では、世界・人間の「多様性」、それらの「共存」「共生」が世界に向けて謳われ、アスリート達は「国」を代表して戦いつつ、自分の個人的な思いや体験を積極的に発信しました。現代の人々は「国」という枠組みだけに収められているわけではなく、「人種」「民族」「宗教」「ジェンダー」「職業」「趣味」「収入」等、個人レベルでは複数のカテゴリーで

世界中の人達と価値観を共有しています。

この授業では SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) をキーワードに、こうした現代の世界ではどのような連帯が求められ、どうすればそれが実現可能なのかを考えていきます。世界をバランスある視点で捉え、多角的に見る訓練を通して、自分の持つ価値観を再認識し、行動を考えていくことが最終目標です。積極的な発言、参加、ディスカッションを中心に進めていきます。年間 5、6 回のレポート提出、学年末には 15 分程度のプレゼンテーションを行ってもらう予定です。

新3年生

◇ 選択科目ガイド（3年） ◇

数学

☆数学2

β 選択者を対象に、数学Ⅲを必修 3 時間とこの選択科目 4 時間の合計 7 時間で学ぶ。この7時間の中で、関数の極限や連続性を調べ、微分・積分の対象を分数・三角・指数・対数関数にまで広げる。また、複素数平面、2 次曲線について学習する。2 学期後半にこれまで学んだ高校数学全般の総合演習も行う。

選択Eおよび選択F

☆地理1

世界の産業(農業・工業)に関する系統的な学習と世界地誌について、教科書「地理 B」および図説資料集を中心に、地図帳、新聞資料、統計書、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注) 3 年次で地理2を受講する者は地理1を並行して受講するのが望ましい。

☆地理2

世界の人口・食糧問題、都市・居住問題、人種・民族問題、地球環境問題、南北問題などについて、教科書「地理 B」および図説資料集を中心に、地図帳、統計資料、新聞資料、映像などの視聴覚教材を使用しながら深く掘り下げて学習する。

注) 地理1を受講したものが履修することが望ましい。

☆日本史1

原始・古代と中世を対象とする。すなわち旧石器時代から戦国時代までをあつかう。必修日本史では近世と近代・現代に重点を置いており、それ以前の古い時代には軽くしか触れられない。そこを補うためにもうけられた選択科目である。

講義は脇役で、テキストの要約と論述問題の解答が主役である。

☆日本史2

史料講読を中心に行う。主に近現代史を取り上げるが、前近代の文献史料も扱っていく。講義は脇役で、テキストの要約と小論文の作成が主である。なお、原則的に 2 年次に日本史1を既に受講しているか、3 年次で日本史 1 をあわせて受講することがのぞましい。

☆世界史 1a

選択世界史(1a/1b)では、1 年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史 1a では、そのなかでも特に東洋史を扱うこととする。(中国史及びアジア近代史)

☆世界史 1b

選択世界史(1a/1b)では、1 年生の必修では重点が置かれなかったところに重点を置き学習する。選択世界史 1b では、そのなかでも特に西洋史(前近代のイスラム史を含む)を扱うこととする。

☆倫理1

2022 度は、主として古代、中世の思想史を扱う予定です。

☆政経1

この授業では国際政治の歴史と理論について学ぶ。どうしたら安定した平和な国際秩序が生まれるのかという問いには、これといった1つの答えがあるわけではない。人間の歴史は

戦争の歴史であると同時に、悲惨な戦争をどう防ぐかという人間の叡智の積み重ねでもある。どうして戦争は起こってしまうのか、平和な国際秩序はどのような条件のもとに可能となるのか。これらの問いへの答えを模索するため、この授業では 19 世紀以降の国際政治の歩み（特にヨーロッパの外交史）とそこから導き出された様々な理論について学んでいきたい。

☆社会科演習 1

「英語で読む国際政治史」

授業内容 この授業では 19～20 世紀の国際政治の歴史について、英語文献を用いてゼミ形式で学びます。なぜ戦争がおこってしまうのか、どのような条件のもとで平和は保たれるのかといった問題を国際政治史を学びながら考えていきます。

初回の授業で教材を配布し、日本語訳の分担等を決めます。2 回目以降の授業では、受講者は自分の担当部分の日本語訳等を発表し、受講者全員でその内容を検討していきます。2021 年度は Sheila A. Smith, *Japan Rearmed: The Politics of Military Power* (Harvard University Press, 2019)等を読みながら、日本の安全保障政策を深く学んでいます。この授業を通じて学術的な英語文献を読むための「知力・体力」を身に付けながら、国際政治史のディープな面白さを味わってもらいたいと考えています。最初は読みやすいものから始めていく予定です。

授業形態 受講者の発表を中心としたゼミ形式＋担当者の講義。

評価 毎週提出する日本語訳と期末レポート、授業参加度に基づく。

注意 受講にあたって英語の得意・不得意は問いません。むしろ授業のために**毎回必ず予習してくることを重視**します。予習内容は日本語訳と重要な語句調べなどで、これが成績の大部分を占めます。授業内容について質問があれば、島田(教務課)を気軽に訪ねて下さい。

☆古文1

古文の読解力を鍛え、読むことの深みを知る。授業において、受け身で現代語訳をノートするだけでは読解力は身につかない。自ら辞書・文法書を駆使して原文に向き合い、どう読み、どう訳すのかを悩む時間の積み重ねが力となる。授業では、学生に一定の範囲を割り当て、その読解の結果を発表してもらい、それに対して討論し、訂正していくことを積み重ねていく。古語辞典を用意してもらうことになる(授業時に指示)。

☆古文2

ある程度の文法知識・語彙力があることを前提とし、一つの作品(巻、章段)を通読する。一場面の現代語訳だけで終わらせるのではなく、なるべく全体を見通すことによって、その作品をより深く味わってほしい。必要な準備等は初回授業時に指示する。

☆漢文2

必修の授業ではあまり取り上げられない、物語や随筆、その他の散文作品など、やや長めの文章を辞書を引きながら読んでいく。多くの文章に触れ、漢文特有の語法や語句を確認することを通じて、漢文独特の表現を味わってほしい。

☆小論文1

何よりも小論文を実践的に書くことを目的にする。ただし、「書く」という行為には当然「読む」、「考える」という行為も含まれるわけで、無限定な形で書くわけではない。また小論文入試についても視野に入れた授業を行う予定である。

教材については、授業選択者と相談して決めるが、何よりも持続的に「書く」意志のある者が選択して欲しい。

☆物理1

1 年次の必修物理で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱」、「波」、「電気」を中心に扱う。演示実験を行うので、皆で議論していきたい。

☆物理2

必修物理、選択物理 1 で学んだことをふまえて、より複雑な物理現象を学んでいく。「力と運動」、「熱と気体」、「電気と磁気」、「原子」を中心に扱う。演示実験を行うので、皆で議論していきたい。

☆化学1

教科課程における「化学基礎」のうち、1 年次の残り、「化学」の一部を学ぶ。

「酸化還元反応」、酸化還元反応のひとつとして「電池や電気分解のしくみ」、「無機化学」、「有機化学」を学ぶ。無機化学では覚える内容が多く、有機化学では覚えたい内容での新しい概念の構築が必要となる。

全般を通して理論だけにおさまらない事実を学ぶ。そのため実験は多く、実験と座学を結びつけて考えていく必要がある。1年次の内容の上に立つカリキュラムである。随時内容を振り返るが、必修化学が振るわなかった者には努力をしてもらわないと厳しいものになる。

使用テキスト) 化学基礎、化学、ニューグローバル 化学+化学基礎

☆化学2

前半は、化学的事象を粒子の運動として物理的にとらえていく物理化学と呼ばれる分野の基礎を学ぶ。物質の三態、気体の法則、溶液を粒子の運動としてできるだけ一貫性をもってとらえていく。反応の速さと平衡では反応そのものについてより掘り下げていく。

数学を用いながら進めていくが α コース選択者にもわかるようにその都度復習していく。数学を用いる面白さにも触れていきたい。ユニークな実験を通して、実験結果をグラフ化し、客観的にレポートする基礎的な訓練をする。表計算ソフトによる実験データの記録や、データ解析も行う。

後半は「合成高分子」、「天然高分子」について学ぶ。有機化学的な構造と物性の関係について模型や実験を通して学ぶ。

使用テキスト) 化学、ニューグローバル 化学+化学基礎、化学の新研究(三省堂)

☆生物1

1年次における既習事項を基礎にして、より詳しく細胞と遺伝子、有性生殖、発生、動物ホルモン、植物ホルモン、動物の反応と行動、生物と環境、生物進化と系統について学ぶ。「生物」の教科書を用いる。

☆生物2

1 年、2 年次で学習したことをもとに、実験を毎時行い、レポートを作成することで学習する。動物や植物の組織の染色と観察、細胞の構造と機能の学習、微生物の観察、光合成色素の分離、DNA の抽出実験、マウスの解剖と組織標本の作製、オワンクラゲ由来の緑色蛍光タンパク質「GFP」の大腸菌への遺伝子組換え実験、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)による遺伝子の解析等から選択して実験を行う。高校生物でできる限りのハイテク実験を体験する。

☆地学1

1年時における内容をふまえて学習を進める。「地学基礎」に加え、「地学」の学習事項も扱う。主に気象分野(「地学基礎」と「地学」の内容)と、天文分野(「地学」の内容)を講義する予定である。

☆地学2

これまでの既習事項をふまえてさらに「地学基礎」、「地学」を総合的に学んでいく。実験や実習などを多く行う予定である。

☆数学演習 1a

数学が現代社会の中でどのように利用されているのかを、暗号技術を中心にコンピュータを用いて実体験する。いま実際に使用されている同レベルのセキュリティをもつ RSA 暗号と呼ばれる暗号システムを作成することが第一の目標となる。そのために数学的な仕組みの理解(高校1年生の数学の内容+ α)と、Risa/Asir という数式処理ソフトでプログラミング練習を行う。プログラミングは未経験でも構わないが、自宅または個人で windows の動く PC があることが望ましい。Risa/Asir などを用いて、今まで手計算で計算していたものを、ソフトウェアを使って問題解決する感覚に慣れてもらう。その過程の中で、統計処理の基本(統計検定 2~3 級程度)を扱う予定である。その後、ユークリッドの互除法、2 進数展開、素数判定などのプログラムを作成し、300 桁におよぶ素数を生成し、暗号を実装していく。

☆数学演習 1b

3 年の α コース選択者を対象とし、大学入学共通テストレベルの問題演習を中心に授業を行い、より発展的な内容まで学習する。2 年次の数学の選択 (α , β) は問わないが、授業は基本的に数学 I + A、II + B の内容を前提として進める予定である。

☆情報2

情報1の学習内容をさらに発展させ、より本格的なプログラミング技術を学習します。情報1を履修していなくても、やる気があれば履修可能です。

プログラミングを学ぶことにより、コンピュータを使って何かを生み出すというクリエイティブな活動を行うことができるようになります。また、様々なプログラムを設計し、自分の意図した通りに動くように修正するプロセスを通して、物事の手順を自ら考え、構造化する能力を身につけることが授業の目標です。課題作成の際、自宅にスマホだけではなくパソコンの作業環境があることが望ましいです。

☆中国語1

発音の基礎、日常会話、基本的な文法、簡単な作文ができるレベルまでを目標とする。授業を通して最新の中国の事情、さまざまな文化を紹介する。

☆中国語2

中国語1(初級)に続いて中級レベルを学び、テキストで学習した「言葉」や「文法」などを「自分のもの」にすることを目的とする。授業中は文法のポイントを確認した上、聞き取り練習や作文・会話練習を行う。特定の場面を想定して、その場にふさわしい問いかけや受け答えが中国語でできるように指導し、中国語での表現力を高めていきたい。

☆ドイツ語1

ドイツ語に関する基礎知識を学び、それをもとにした情報の受信・発信能力の基礎を習得することを目的とする。英語等との比較も行いつつ、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」ことについての基礎的・実践的トレーニングを行なう。時間に余裕があればドイツ語圏の文化・社会事情も扱いたい。

☆ドイツ語2

ドイツ語1や総合のドイツ語で学習した内容を踏まえつつ、ドイツ語での情報の受信・発信能力をさらに伸ばすことを目的とする。使用する Text を利用して「読む」「書く」「聞く」「話す」のそれぞれについての基礎的・総合的実践トレーニングを行う。また機会を見て使用

Text とは別の教材を用意し、ドイツ語圏の文化・社会事情にも触れる予定。進捗等の事情が許せばドイツ語検定試験の問題なども扱い、卒業後のさらなるステップアップにも備えたい。

☆フランス語1

初心者が無理なく学習できることを目指す。文法を学ぶだけでなく、何回もフランス語を目にし、耳にすることで徐々にフランス語の文字や発音に慣れていけるようにする。さらに簡単な挨拶や自己紹介など日常会話に役立つ表現も紹介していく。語学用教科書やコピーを用いる予定。

☆フランス語2

フランス語1で学んだことを復習するにとどまらず、新たな文法項目や会話表現も学んでいく。短い文の読み書きや簡単な会話を通じて、さらにフランス語に親しむことを目指す。フランス語圏の文化や社会事情などを紹介することもありうる。選択者からの希望があればフランス語で授業を行うことも可能。なお、授業中は教科書やコピーを用いる予定。

☆英会話1

Upper beginner to advanced level English students will improve their vocabulary, grammar, speaking and listening skills. (事前に希望を聞いて、クラス分けをすることがある。)

☆英語 2a

必修 6 時間の英語に加えて、より高度な英語の学習を希望する生徒を対象とするコースである。あらゆる角度から英語の実力を養うことを目的とする。

☆英語 2b

Upper intermediate and advanced level English students will use newspaper and magazine articles to form the basis of group discussions and essays. (事前に希望を聞いて、クラス分けをすることがある。)

体育・芸術

☆体育 1a

筋力トレーニングの基礎(方法、プログラム作成、栄養など)を学習しながら、筋力アップと体力づくりを目的とした授業を行う。経験者だけでなく、初心者も対象とし、授業の前半は講義、後半は実技という形で進めていく。人数を制限することがある。

☆体育 1b

様々な競技のルールを学習し、技術、戦術を習得しながら、試合を中心とした授業を行う。競技・内容は受講者が考え、準備する。人数が多い場合には、分割・抽選となることがある。

☆芸術1・2

○書道1・2 (書道1の定員:60名)

書道1では、漢字の各書体の変遷を中国や日本の名跡から学ぶ。また、仮名の学習では平安時代の古筆を学ぶ。授業では墨汁は使わず磨墨をし、用具・用材は高校生に相応しいものを使用する(初回授業にて指示)。

書道2では、臨書の条幅作品制作を中心として篆刻・少字数・漢字仮名交じりの書、そして生活の中の書式を学ぶ。

○音楽1・2 (音楽1の定員:35名)

音楽1は、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスから一種類を選択し、一年かけて弦楽合奏を行う。コーチによるレッスンを受けるので、楽譜の読み方など最低限の知識は必要

だが弦楽器未経験者も歓迎する。なお、楽器を所有していない生徒には学校の楽器を貸し出すが、履修人数によっては一台を数名で使うことになる。

音楽2では、履修者の得意分野を考慮し、引き続き合奏中心の授業を行う。

○日本画1・2（日本画1の定員:64名）

日本画1では、おもに野菜、花、剥製などをモチーフにした静物画を制作する。岩絵の具と顔彩と色紙を用いて、基礎的な日本画の技法を習得する。

日本画2では、静物画の他に、風景制作、模写、篆刻を行う。岩絵の具、箔など本格的な日本画材料も使用し、より高度な絵画表現を学ぶ。

○西洋画1・2（西洋画1の定員:30名）

西洋画1では、油絵具の使い方から始め、1年間で三点の油絵を制作する。各学期に静物画・風景画・自由制作の基本的な描き方を学ぶ。美術鑑賞として美術館見学を行う。

西洋画2では、自由なテーマにより、自己の表現の可能性を探ると共に技術を学ぶ。1学期は木炭デッサンと油絵の制作を行う。2学期は下絵を発展させ油絵の制作を行う。

○工芸1・2（工芸1の定員:30名）

工芸では木材や金属等の実材の加工、デザインを通じ、素材について学び、自ら設計・デザイン、制作を行い、ものをつくることについて学ぶ。

工芸1では、基本的な素材の加工方法、設計・デザインなどを行う。

工芸2では、身近にあるもの(照明・食器など)の設計・デザイン、制作を行う。

